

## 潮位の副振動（あびき）にご注意ください

**九州地方西岸では、大きな潮位の副振動（あびき）が発生しやすい季節を迎えています。大きな副振動が発生した場合は、低地での浸水や小型船舶の転覆等にご注意ください。**

潮位の副振動は、湾や港内の海面が数分から数十分の周期で昇降を繰り返す現象で、長崎県などでは「あびき」と呼ばれています。特に最大全振幅が100センチを超えるような大きな副振動が発生した場合には、海面の昇降や強い流れにより、海岸や河口付近の低地での浸水や港湾施設の破損、係留している船舶の流出・転覆等の被害が生じることがあります（表1）。

2009年（平成21年）2月および7月には九州各地で大きな副振動が発生し、2月は鹿児島県薩摩川内市の上甕島や熊本県天草市で、7月は長崎県対馬市や山口県萩市で漁船の転覆、家屋の床上・床下浸水などの被害がありました（写真1）。

過去に観測された最大の副振動は、1979年（昭和54年）3月31日に長崎検潮所（長崎市松が枝町）で観測されたもので、最大全振幅が278センチに達し、長崎港のほか福江島の富江港でも大きな被害が発生しました（写真2）。

副振動は、潮汐や波浪、高潮、津波とは原因が異なり、海面上の気圧の微小な振動などによって引き起こされると考えられていますが、具体的に「いつ・どこで・どの程度」を予測することが難しい現象です。過去の記録から九州地方の西岸では大きな副振動が発生することが知られており、その発生回数は3月を中心に2月から4月にかけて多くなります（図1）。このため、これからの時期は特に潮位の副振動に注意する必要があります。

大きな副振動が発生した場合は、最寄りの气象台から府県気象情報（潮位情報）を発表しています。

### 【ホームページの関連情報】

副振動（あびき）に関する詳しい解説は下記をご覧ください。

<http://www.jma-net.go.jp/nagasaki/kaiyo/knowledge/abiki/index.html>

### 【本件に対する問い合わせ先】

長崎海洋气象台 海洋課      Tel : 095-811-4865

表 1. 副振動による近年の主な被害事例

年月日	被害の発生場所	被害状況
平成 21 年 2 月 25 日	熊本県天草市	床上・床下浸水
	鹿児島県薩摩川内市上甑島	床下浸水、小型漁船の沈没・転覆
	鹿児島県いちき串木野市	小型漁船の沈没
	鹿児島県南さつま市	小型漁船の転覆
	鹿児島県屋久島町	小型漁船の小破
平成 21 年 7 月 15 日	山口県萩市	床上・床下浸水
	長崎県対馬市	床上・床下浸水、小型漁船の転覆・破損・浸水
平成 22 年 2 月 1 日	鹿児島県薩摩川内市上甑島	床下浸水
平成 22 年 3 月 1 日	長崎県長崎市	床上浸水
平成 22 年 3 月 3 日	鹿児島県薩摩川内市上甑島	小型漁船の転覆
平成 22 年 3 月 4 日	長崎県長崎市	床下浸水



写真 1. 副振動による上甑島での道路冠水  
(2009 年 2 月 25 日 薩摩川内市上甑支所撮影)



写真 2. 1979 年 3 月 31 日の副振動（あびき）による富江港での被害（福江海上保安署撮影）  
(西部海難防止協会「津波（長崎港アビキ）対策調査委員会報告書」（昭和 57 年 3 月）より)

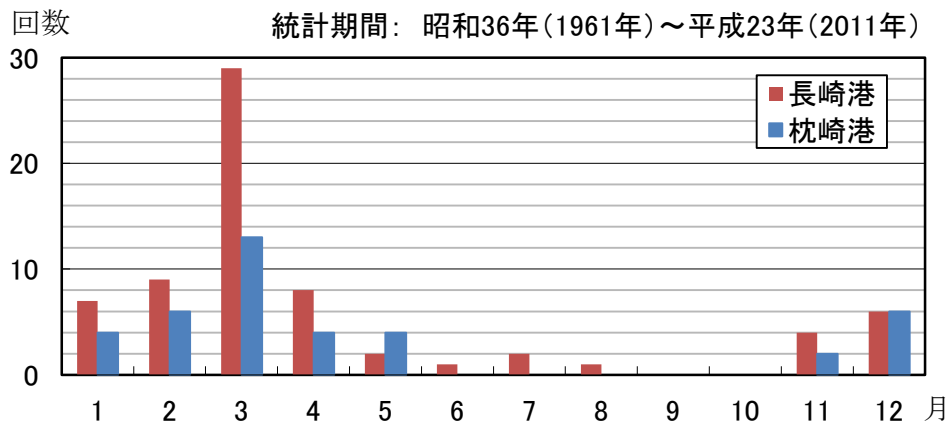


図 1. 長崎港と枕崎港における最大全振幅 100 センチ以上の副振動の月別発生回数  
大きな副振動の発生は冬から春にかけて多く、2月から4月で全体の6~7割を占めています。